共立女子大学　文芸学部　カリキュラム・ツリー

ディプロマ・ポリシー

CP2-6
卒業生のアウトプットとなるように、専門教育科目を中心とする教育内容を明示・周知する者、専門性を活用する者についてまとめて「卒業論文・卒業制作」および「卒業論文・卒業制作ゼミナール」を必修とする。

CP2-3、2-4、2-5
「多文化・言語・コミュニケーション」「文化・芸術」「地域・持続可能な開発」の3つのテーマ、4つのテーマ、5つのテーマの教育内容を、専門に応じ、専門に関する学び方・深め方の必修科目を段階的に配置する。1学年は、1学期に「専門の学び方」を通じて、専門に関する学び方・深め方を身に付ける。

- 言語・文学領域は、日本文学概論
- 言語・文学領域は、英語圏文学概論
- 言語・文学領域は、フランス語・ドイツ語・ロシア語
- 文化・芸術領域
- 自然環境調査研究領域
- 自然環境調査研究領域
- 社会調査と実習
- メディア領域は、メディア概論

専門性を活用・創造する活用し、論理的、客観的に考察する工夫、地域の現実を理解し、自己の現実を把握し表現する工夫、さらに現実の問題の中で自己のリーダーシップを実践する工夫。

PBL（Project Based Learning/Problem Based Learning）の教育方法を用いて、1年生は「基礎ゼミ」、2年生は「専門ゼミ」として設置する。

別途の科目は2学期毎の科目を開講する。開講の一つの目的として、各領域・専門の必修・選択必修の単位数を確保した「国際理」「専門理」を設け、卒業する者に授与する。

CP2-2、2-4、2-5
「多文化・言語・コミュニケーション」「文化・芸術」「地域・持続可能な開発」の3つのテーマ、4つのテーマ、5つのテーマの教育内容を、専門に応じ、専門に関する学び方・深め方の必修科目を段階的に配置する。1学年は、1学期に「専門の学び方」を通じて、専門に関する学び方・深め方を身に付ける。

- 言語・文学領域
- 自然領域
- 文化領域
- メディア領域

専門性を活用・創造する活用し、論理的、客観的に考察する工夫、地域の現実を理解し、自己の現実を把握し表現する工夫、さらに現実の問題の中で自己のリーダーシップを実践する工夫。

PBL（Project Based Learning/Problem Based Learning）の教育方法を用いて、1年生は「基礎ゼミ」、2年生は「専門ゼミ」として設置する。

別途の科目は2学期毎の科目を開講する。開講の一つの目的として、各領域・専門の必修・選択必修の単位数を確保した「国際理」「専門理」を設け、卒業する者に授与する。

CP2-1
生命には、学問領域の専門性に関わらずとなるに、2年次の領域選択を踏まえた地域・持続可能な開発のための、専門実践分野の明示を必修とする。「文芸入門A・B」を必修とする。

カリキュラム・ポリシー

CP1
学生は、ひとりひとりが「一つ目の文化の深化」、「多文化・言語・コミュニケーション」「文化・芸術」「地域・持続可能な開発」の3つのテーマ、4つのテーマ、5つのテーマ、「基礎ゼミ」「専門ゼミ」「国際ゼミ」「専門ゼミ」「国際ゼミ」の学びを通じて、「自己・他者・社会・世界」の関係性を学び、「自己とキャリアプラン」に活かす。

専門性を活用・創造する

- 自己と他者、社会、世界の関係性を理解し、「自己とキャリアプラン」を通じて、「現代社会の課題の解決」「課題解決実践演習」「リーダーシップ開発」の3つの科目群から2年間を選択必修する。
- 自己と他者、社会、世界の関係性を理解し、「自己とキャリアプラン」を通じて、「多文化・コミュニケーション力」「リーダーシップ力」「チャレンジ力」を育成する。「多文化・コミュニケーション力」の学生は、「多文化・言語・コミュニケーション」の科目から、「リーダーシップ力」の学生は、「リーダーシップ開発」の科目から、「チャレンジ力」の学生は、「チャレンジ開発」の科目から、それぞれ2年間で2科目を選択必修する。

自己とキャリアプラン

- 自学自修において、プレイスメントテストの結果を踏まえ、学問に基づいて学ぶ基礎を学ぶ。グローバルな社会で活躍する人材に求められる、「英語リニューアル」「英語リニューアル」「英語リニューアル」を必修とし、学生の習熟度や未来に応じて「日本の文化や言語を基礎とし、英語によるコミュニケーションを通じて国際的なコミュニケーションを学ぶ。」を、「国際理」の2年時に、「専門理」の3年時に選択必修する。
- 「地域・持続可能な開発」の科目群では、「地域の文化や言語を通じた地域・グローバルなコミュニケーション」を通じて、「地域・持続可能な開発」を学ぶ。「地域・持続可能な開発」の科目群では、「地域の歴史・文化・言語・コミュニケーション」、「地域の歴史・文化・言語・コミュニケーション」、「地域の歴史・文化・言語・コミュニケーション」の科目から、「リーダーシップ力」の学生は、「リーダーシップ開発」の科目から、「チャレンジ力」の学生は、「チャレンジ開発」の科目から、それぞれ2年間で2科目を選択必修する。
- 学生生活の基礎、キャリアプランやキャリアプラン形成のための「ライフキャリア」を通じて、「人間関係」や「文章作成技術の修得」、課題発見、調査分析、情報収集、グループワーク、プレゼンテーションなどの課題解決に必要な技術の修得を1から4年生にかけて、社会人として通用する力を育成する。

自己とキャリアプラン

アドミッション・ポリシー

AP1
【Qの問・対話】
- 高等学校の教育課程を幅広く修得していた。
- 高等学校の教育課程を幅広く修得の上で、文芸学部の学問に必要な基礎的な知識（特に「国語総合」と「古典A」を通じて、現代・古文・漢文を理解するための基礎的な知識（特に「古典B」）を身につけた。
- 高等学校の教育課程を幅広く修得の上で、文芸学部の学問に必要な基礎的な知識（特に「地理歴史」を通じて、各地域の歴史・文化・言語を理解するための基礎的な知識）を身につけた。

AP2
【キモ・対話・表現】
- 現実を直視する力、自分の考えを的確に表現する力を基礎となる思考力・判断・表現力を有していた。

AP3
【Qの問・表現・実践】
- 問題に対し、主体性を持って最後まで取り組む姿勢・態度を有していた。
- 文芸学部の学問に関心を持ち、ワークショップや実験・実習に参加し、協働して、共同社会の発展に貢献しようという意欲・態度を有していた。